



学校だより 9月号

泉区緑園五丁目28番

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ryokuenhigashi/>

TEL (811) 6710

学校長 副島江理子

2020年への思い

夏休みが終わり、子どもたちは元気に登校しました。3名の転入生を迎えて396名でのスタートとなりました。

夏休みの間も、水泳教室や植物の観察・世話にたくさんの子どもたちが登校しました。今夏は天候が芳しくなく、水泳の練習があまりできませんでしたが、それでも7月28日に行われた泉区水泳大会には4年生以上の32名の選手が出場し、その中から5名の選手が横浜市水泳大会に出場しました。(8月25日、横浜プール)今年の横浜市水泳大会は例年のない新記録ラッシュでした。本校の子どもたちも堂々とした態度で全力で泳ぎ切ることができました。今年の子どもの好記録は「リオデジャネイロオリンピック」の日本選手の活躍の影響によるものかなと感じました。

水泳競技のみならずオリンピックでの日本選手の活躍は私たちに大きな夢を与えてくれました。すでにいろいろと報道されていますが、今回は日本選手の「最後まで集中力を持続するここ一番の勝負強さ」「より高い目標を掲げて熱心に練習に励み続けるひたむきさ」等、気持ちの強さが印象的でした。また、相手への謙虚な気持ちや周囲に対する感謝や配慮もこれまで以上に感じました。子どもたちがこうした選手たちの姿からたくさんのことを吸収したのではないかと思います。もちろん、世界各国の選手たちの活躍する姿にも大きな感動を得たことでしょう。また、競技だけではなく、オリンピックを通して、世界の国々や人々への興味・関心をもった子どもたちもたくさんいたことでしょう。高学年の子どもたちには、ぜひ、選手の姿やオリンピックの運営を通して報道されていた「世界情勢」や「人権問題」、「環境問題」等にも思いを巡らし、続く「パラリンピック」でもいろいろな気づきをしてほしいと思います。

そしてそのきっかけを4年後の「東京オリンピック・パラリンピック」へとつなげ、広めていくことを願っています。4年後に日本で開かれるオリンピック・パラリンピック。小学生である子どもたちは、直接選手となって活躍する年齢には達しませんが、より世界を身近に感じ、直接、世界各国の人々と接する大きなチャンスです。また、中学生・高校生となっている今の高学年の子どもたちは、たとえスポーツではなくても、自分の興味・関心のある分野とオリンピックを結び付けて、ふだんでは経験できない多くの経験をし、考えを広め、深めることができます。外国の方々とコミュニケーションをとるために言語を習得しようと思う人もいるでしょう。子どもながらに、オリンピックをきっかけに、いろいろなことに出会い、問題意識をもち、自分なりの行動を起こしていくことが、これから先の子どもたちの人生に少なからず良い影響を及ぼすものと大いに期待します。

さて、こうしたことを踏まえて、緑園東小学校でも子どもたちの人間形成を考えていきたいと思っています。一番に思うことは、「自分の思いを強くもち、めあてに向かって自分で自分を成長させていくこと」です。柔道男子100キロ級銅メダリストの羽賀龍之介選手(横浜市立六角橋中学校出身)は「中途半端な思いでは物事を達成できない。自分が信じ切れる夢や目標を立て、それに向かって行動してきた。」と話しています。(神奈川新聞8/30付記事より)

本校でも、子どもたち自身のスローガンのもと、常にめあてをしっかりと持って、自分たちで考えて行動し、問題解決を図っていくようにしていきたいと思っています。

夏休み中は、夏祭りやキッズクラブのイベント等で、子どもたちが地域の皆様に大変お世話になりました。これからも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。